

以森伝心

No.

47

前理事長 柏原康夫氏 筆

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

巻頭特集

慈しみの心を
守り伝える

■「森林・木材感(観)」を養う

——大学における研究と教育

■京都の森の仲間たち

NPO法人 八幡たけくらぶ

■豊かな森を次世代へ

森の出前授業

平安の初め、嵯峨天皇が大沢池の菊ガ島に咲く可憐な菊を手折り、殿上の花瓶に挿されたところ、その姿が「天、地、人」三才の美しさを備えていたことに感動され、「後世花を生くるものは宜しく之を以て範とすべし」と宣示、これが始まりと伝えられる「いけばな嵯峨御流」。嵯峨天皇の自然や草木に対する慈しみの心は、現代においてどのように生かされていくのか、辻井ミカ華務長にお話をうかがった。

写真：大沢池の夏の風景



“慈しみの心”を 守り伝える

いけばな嵯峨御流 華務長 辻井ミカ
華道家

平安の姿を今に伝える、大沢池

京都市右京区嵯峨にたたずむ大覚寺。弘法大師空海を宗祖と仰ぐ真言宗大覚寺派の本山で、正式には「旧嵯峨御所大本山大覚寺」と称され「いけばな嵯峨御流（以下、嵯峨御流）」の総司所（家元）でもある。「ここへ来ると、1200 年前に嵯峨天皇が実際に佇まれ、船を浮かべて周遊された、まさに同じ場所に立たせていただいていることに、いつも感動します。そして、1200 年間、変わることなく自然の風景が守られていることに驚くばかりです」

辻井ミカ華務長に案内された大沢池は、大覚寺の東に広がる周囲約1 km の日本最古の人工の林泉（林や泉水などがある庭園）で、嵯峨天皇が離宮嵯峨院（現在の大覚寺）を造営される際、唐の洞庭湖を模して造られたことから「庭湖」とも呼ばれる。昔ながらの日本の風景を色濃く残し、歴史的景観が美しい大覚寺の伽藍と相まって時代劇・各種ドラマのロケ地としても有名だ。

「毎年秋には観月の夕べが催され多くの観光客で賑わいます。その一方で、大沢池は京都を代表する蓮の名所でもあり、夏には水面が蓮で覆われます。そこで、観月の夕べの前には、夏の間に繁茂した蓮や菱を刈り取らねばなりません」

奈良の猿沢池、滋賀県大津市の石山寺とともに日本三大名月鑑賞地と称される大沢池は、かつて嵯峨天皇が舟を浮かべ貴族や文化人らと中秋の名月を愛でたと伝えられる。その故事に倣い、「観月の夕べ」では池に浮かぶ龍頭鶴首舟から、空に浮かぶ月と水面に映る月を優雅に鑑賞するため、蓮や菱を一掃して鏡のような水面にする必要がある。

「刈り取った蓮や菱は周囲の竹林に運ばれますが、

やがて醗酵して肥料となり美しい竹林を育みます。美しい風景が保たれるためには人の力が必要であることに、とても大きな感動を覚えます」

持続的な生命観を表す、景色いけ

「この池には大きく3つの意味があって、ひとつは離宮嵯峨院の園池であり勝手に手を加えられなかったこと。次に、ため池として周辺の水田に水を送るという大切な機能を担ってきたこと。そして、日本の風景をいける景色いけの“型”の原点になっていること、です」

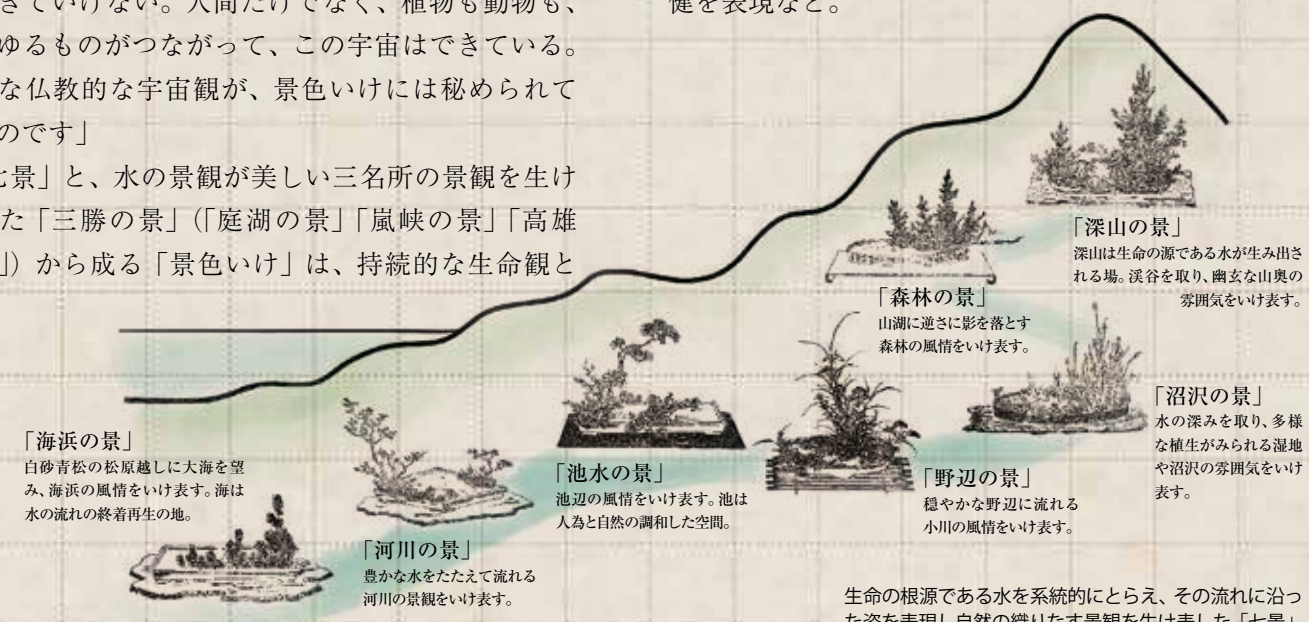
大沢池を後にし、複雑に折れ曲がりながら多くの堂宇をつなぐ歴史情緒豊かな回廊を巡り、インタビューのために用意された一室に入ると、一枚の資料を手渡された。

「“景色いけ”は、山から海までの風景を水の連続性のなかで生け表したものです。風景の源は“水の流れ”です。山に湧き出た水は森林を育て、野辺を潤し、池水や沼沢に蓄えられて、河川を流れて海に至ります。そして大海に注がれた水はまた雲となり、雨となって再び山の源流に戻ります」

手渡された資料には、山から海へと至る水の流れに沿って、「深山の景」「森林の景」「野辺の景」「池水の景」「沼沢の景」「河川の景」「海浜の景」の「七景」が図示されている。

「水は生命の原点であり生命そのもの。水が連続してつながり、上流から下流へ、そして海へ、この繰り返し風景を生み出す。そして生命もひとつだけでは生きていけない。人間だけでなく、植物も動物も、あらゆるものがつながって、この宇宙はできている。そんな仏教的な宇宙観が、景色いけには秘められているのです」

「七景」と、水の景観が美しい三名所の景観を生け表した「三勝の景」（「庭湖の景」「嵐峡の景」「高雄の景」）から成る「景色いけ」は、持続的な生命観と





新しい天皇陛下の御即位を祝って「御所車」に挿花



いけばなというと、その名称から「花」を扱うイメージが強いが、辻井華務長は華展をはじめ国内イベントや海外でのデモンストレーションなどでは、いわゆる「枝もの」を用いた大作を手掛けることも多い。

「作品のテーマはもちろん、イメージしたスタイルに仕上げるためにも、花材はとても重要になります。山から花材を許可を得て伐り出してくれる人がおられて、懇意にしている花屋さんに、必要とする花材のイメージを伝えておくと、それぞれに適した方に声掛けしてくださるのです」

そういう方々は林業に従事しているので普段から山に入り、どこにどんな木があるのかを熟知している。リクエストに即した形や特性の「枝もの」を的確に切り出してきてくれる、頼もしい存在。しかし近年では高齢化と後継者不足で、その数が激減していると、心配そうな面持ちで辻井華務長は語った。

生命のつながりを表す、花がさね

天皇陛下御即位を祝う「御所車」挿花の前年の2018年、もうひとつ、嵯峨天皇ゆかりの大きな行事が催された。

「1200年前、京都で大飢饉による疫病が流行った際、当時の天皇であられた嵯峨天皇は、弘法大師のお勧めにより、国民の安泰を心から願い御写経をなされ

ました。嵯峨天皇が浄書された般若心経は勅封（60年に1度の開封）として奉安され、平成30年（2018）は開封する年に当たりました」

全国に疫病が蔓延したことに対し嵯峨天皇は「朕の不徳にして多衆に何の罪かあらん」と、正殿（御所）を避けて離宮嵯峨院で質素儉約に努められ、紺紙に金泥で一字三礼の誠を尽くして般若心経を書写されると疫病はたちまちに治まったという。そして、御写経が奉安された年が弘仁9年（818）の戊戌の年であったことから、それ以後、戊戌の年にその御写経を開封し天下泰平をお祈りする伝統儀式である「戊戌開封法会」が執り行われている。

この60年に一度という貴重なご縁に巡り合えたことを記念して、嵯峨御流は新花「花がさね」を発表。

「慈しみの心」など内面的な想いを表現するとともに、植物の形状や特徴など本質的な美しさを捉えながら“かさねの美”として生け表す新しい表現形式です」

従来のいけばなでは、枝が交差したり葉が重なったりの表現はタブー視されていたと補足したうえで、辻井華務長は続ける。

「私たちは皆、何かの役に立っています。そして、人と人が出会うことで力が倍增されていく。一人だけでなく他者との関係のなかで生きている以上、それは当然のことです。自然界でもそれは同じで、すべての生命は出合うことによって生かされます。花と花が出合う……。『かさねの美』には、ご縁を大切にする気持ちを託す無限の可能性があるように思います」

大沢池の景観とともに、嵯峨天皇の「慈しみの心」を1200年の長きにわたって守り伝えてきた、嵯峨御流。奇しくも、嵯峨天皇が一字三礼の誠を尽くして般若心経を書写し疫病平癒を祈願された時と同じく、新型コロナウイルス感染症で世界が苦難に直面している現在、新花「花がさね」は「慈しみの心」を横軸に広げていく役割を期待されているのかもしれない。



「森林・木材感（観）」を養う 大学における研究と教育

京都府立大学院
生命環境科
学研究教授
(研究科長・学部)

古田 裕三



私は現在、大学で教育・研究を行いながら、社会貢献活動の一環として、本協会の運営にも携わっています。そこで、本稿では、「学」に主眼を置き、本協会、森林・木質産業界、さらには社会に向けた意見を以下に述べさせていただきます。

大学教員の職務は、教育、研究、社会貢献、学内自治の4つといわれています。その中で、学内自治以外の職務は、その境目が明確であってないような部分が多いです。大学のこのような責務は、教育基本法の中に明確に定義されているとともに、中央教育審議会答申（2018年11月）『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン』においても、「大学は、教育と研究を一体不可分のものとして人材育成と研究活動を行っており、自由な研究の遂行を通じて社会に大きく貢献している」と述べられています。

大学における研究のドライビングフォースとなるものは、私は大きく分けて二つあると考えています。一つは、「欲（金銭、名誉、生活の質の向上、など）」であり、現在、特に理系の研究に求められているものといえるかと思います。もう一つは、知的好奇心・単純興味であり、そもそも研究が古来は西洋の王侯貴族の趣味や遊びであったことから納得がいくかと思います。私はこのような中、学生をはじめ皆さんが研究課題を選ぶにあたり、一人の大学教員として、まずは教育的効果も鑑みて、後者を推奨するとともに、前者の研究にも極力関わってもらうように心がけています。興味のある研究で自己の力量を伸ばすとともに、森林・木質産業の社会的背景やニーズに触れてもらうことにも重点を置いた研究課題の選択方法といえるかと思います。

一方で、研究の意義に対する理解や重視の度合いについては、研究成果を享受する人の立場や価値観や力量等により大きく異なるのが現実です。基礎研究においては、その研究が何の役に立つのか、とよく聞かれます。ただ、例えば電気を初めて見つけた人も、このような高度社会を予測したわけではなく、光ったことが嬉しかった単なる知的好奇心がスタートであったでしょう。何の役に立つかを決めるのは、必ずしもその時代に存在する人ばかりではないのも事実です。ただ、社会的責任を考えた場合、基礎研究の意味合いは、可能な限り説明する必要はあるでしょうし、その成果はすぐには実務に役に立たないものの、実務の際に必要となる「森林・木材感（観）」を裏付け養う内容を多く含んでいます。そして、それらの研究成果は、万人の共通言語である（少し勉強は必要となるが）「科学という言葉」で残し皆に伝えるべきでしょう。技術は個人に由来するものが多く衰退する可能性を秘めていますが、科学は衰退しない積み重ねのものです。技術を科学として残す、科学的根拠をもって技術を説明する、自由な発想のもと新たな技術シーズを生み出す、そしてそれらを社会や産業にも還元する（「森林・木材感（観）」を裏付け養う意味も含めて）。これが我々大学の研究における責務かと思っています。



NPO法人 八幡たけくらぶ (八幡市)



木津川・宇治川・桂川の三川の合流地点に位置する八幡市。石清水八幡宮近辺に見られる照葉樹林や古い歴史をもつ竹林が特徴的なこの地域で、竹林整備を中心に活動されている「NPO法人 八幡たけくらぶ」の竹下さんにお話を伺いました。

——竹と共生する豊かな里山の再生を目指して

我々は 2003 年に男山の自然環境を守り、竹と樹木が共生する里山の再生という志のもと、初年度は 28 名の会員でスタートしました。2009 年に NPO 法人に認証されて、今では会員は 100 名を超えています。毎月 1 日、5 日、10 日、



15 日、20 日、25 日、30 日と月末の 2～3 日と定期的に活動しており、毎月のべ 150 人程が活動しています。

会員は、退職後に地域に貢献したいと参加する方が多く、最高齢は 87 歳。それぞれの体力や力量に併せてやりがいを持って参加いただいています。

参加人数は 20 名ほどですが、ノコギリやチェーンソーでの竹の伐採、伐採後の整理、粉碎作業の担当、と、その場で役割を分担して作業しています。

竹林の整備以外にも、竹細工のほかいぶし竹づくりやタケノコ掘りなど活動は多岐にわたります。会の自主的な運営のためタケノコを出荷して収入にあてたりもしています。

——地域での活動の継続に向けて

夏の暑い日などの作業はつらいですが、明るく手入れをされた竹林を見ているとやりがいを感じます。活動を続けるにつれ、地域からの依頼などもいただきフィールドは広がっています。地域の方からの喜びの声や、外部からの表彰などは、活動の励みとなっています。

ただ、竹林はいったんキレイになっておしまい、ではありません。きちんと維持するには人の手が必要で、継続していくために地域の理解や協力は欠かせません。

近年では地域の小学校や自治会などから子どもたちへの竹細工の指導依頼なども増えています。子供たちにもものづくりの楽しさ、自然の大切さを伝えることと、同時に自分たちで地域の環境を保全していくことの大切さも感じてもらえたらと考えています。



団体プロフィール

NPO法人 八幡たけくらぶ

設立：2003年

活動地：八幡市

会員数：正会員114名、賛助会員3名

活動概要：竹林整備、竹細工やいぶし竹づくり、タケノコ掘りなど竹資源の活用



豊かな森を次世代へ

森の出前授業

「緑の募金」の取り組みの一環として、府内の幼稚園・保育園・小中学校を対象とする森林環境教育に関する出前授業など実施しています。2021 年度の事業の様子をお伝えします。

6月28日 京都市立安朱小学校



3 年生の皆さん 46 人が、京都森林インストラクター会の指導で、安祥寺山で

自然観察会を実施しました。児童の皆さんは、グループごとにインストラクターの解説で植物などを観察しながら登り、お気に入りの葉っぱを拾ってカードにしました。

この「森の出前授業」は、皆様からお寄せいただいた「緑の募金」を財源として実施しています。当協会の「森の人材バンク」には、森林体験活動の指導ができる人材を登録しており、ご希望の学校にご紹介しています。実施を希望される場合は、事務局（巻末参照）までお問い合わせください。



おうちで森とつながろう！夏休み森の教室 2021



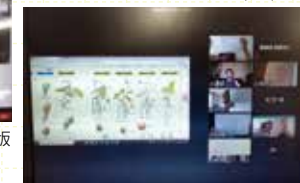
8月7日

新型コロナウイルス感染症の拡大により活動が制約される中で、子どもたちに森について関心を持ってもらう機会とするため、昨年に引き続き今年もオンライン版「森の教室」を開催しました。

当日は、ビデオ会議システム Zoom を使用し、低学年版では「木と友達になろう」、高学年版では「森の働き」をテーマに、それぞれ実施。クイズなども交え、森林インストラクターのお話を熱心に聞いていただきました。後半は、京都のヒノキを使った木琴の作り方の説明を聞いていただきました。それぞれのご家庭で、オリジナルの作品づくりに取り組んでいただきました。



低学年版



高学年版



京都のヒノキでつくる木琴



SDGs について学ぶ絵本もプレゼント（アインズ株式会社提供）

事務局からのお知らせ - 活動報告 -

令和3年3月5日

京都府ホンダ会様から緑の募金をいただきました

府内各店舗に設置いただいている募金箱への募金に加え、各販売店のハイブリッドカー販売台数に応じて、緑の募金へご支援をいただきました。

令和3年3月16日

ダイドードリンコ株式会社様からの「緑の募金」に対し感謝状を贈呈

令和2年中に府内に設置された「緑の募金付き自動販売機」の売上に応じてご寄付いただいた「緑の募金」に対し、感謝状を贈呈しました。



令和3年3月16日

株式会社中央倉庫様からの「ご寄付」に対し感謝状を贈呈

協会が行う緑化推進活動及びこどもたちへの森林体験学習の趣旨にご賛同いただきご寄付いただいたことに対し、感謝状を贈呈しました。



令和3年6月



緑の募金付き自動販売機を新たに設置いただきました

売り上げの一定額が緑の募金にあてられる「緑の募金付き自動販売機」計4台を、株式会社島津製作所瀬田事業所に設置いただきました。

令和3年6月24日

令和3年度定時総会開催

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、最小限の正会員、役員の出席のもと開催。令和2年度決算及び役員の選任、定款の変更がそれぞれ承認されました。

令和3年6月21日

国際ソロプチミスト京都様からの「ご寄付」に対し感謝状を贈呈

子どもたちの森林体験学習の趣旨にご賛同いただき、ご寄付いただいたことに対し、感謝状を贈呈しました。



令和3年6月30日

令和3年度緑化運動ポスターコンクール入賞作品決定

府内の小・中・高・特別支援学校等から905点の応募があり、入賞作品が決定しました。作品の一部は全国コンクールへ応募されます。

※今年度の表彰式・展示会は緊急事態宣言の発出に伴い中止となりました。

最優秀賞の2作品



福知山市立惇明小学校6年
塩見菜葉さん



京都市立京都御池中学校2年
林芽衣香さん

緑の募金ご協力をお願い

緑の募金は、地域や学校の緑化活動や、未来を担う子どもたちの森林環境教育などに使われています。皆様のご協力をお願いいたします。



●郵便振替や銀行振込で

どこでも、誰でも募金ができます。

1. 郵便振替

00990-1-83253

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

2. 銀行振込 京都銀行府庁出張所

普通 3154305

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

理事長 安藤 孝夫

●商品購入や募金箱で

「緑の募金付き商品」を購入したり、各所に設置された「緑の募金箱」に直接募金することで、ご協力いただけます。「緑の募金付き商品」開発・販売や募金箱の設置等、様々な形でご協力いただける店舗様、事務所様も募集しています。



令和3年度春募金実績

9,131,774円

ご協力ありがとうございました。

会員PR欄

 **KYORAKU**



「きょう」の森、支え役。

KYOTO

MORIREN

発行: 公益社団法人京都モデルフォレスト協会
〒604-8424 京都市中京区西ノ京樋ノ口町123 京都府林業会館3階

TEL&FAX 075-823-0170 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <https://www.kyoto-modelforest.jp>

 [facebook](https://www.facebook.com/KyotoModelForest) <https://www.facebook.com/KyotoModelForest>

入会案内資料をご希望の方は
ご連絡ください。